童話と民話と絵本

2021年2月
眞鍋由比

グリム童話はみなさんおなじみですね。今の中学３年生が中１の時、「国語力」の授業で司書の一人がグリム童話の『ねむりひめ』を読み聞かせてくれたのを覚えていますか？そのオリジナルがいま神戸ファッション美術館で展示されています。

グリム童話やペローの長くつをはいたねこなどのストーリーを一枚絵にまとめたもの、シンデレラなどはディズニーがオブラートに包んでやさしいものに変えましたが、もともと「はいかぶり」はなかなか残虐なものだった（ずいぶん前に『本当は恐ろしいグリム童話』が流行しましたね）。

フィッシャーの『ブレーメンのおんがくたい』で人間に捨てられた四匹が4段ベッドで寝ているとき、絵本になった作品は猫だけばっちり起きているのに、もともとのデッサンはみんなしっかり寝ていたこと、

『こねこのぴっち』の前のお話として描かれた『たんじょうび』にでてくるリゼッテおばあさんの緑の椅子が、そのまま本物が展示されています。かなり保存状態がいい。

ホフマンの『おおかみと七ひきのこやぎ』はいつも被害者側のヤギ視点で語られるけど、オオカミからみると結構、残酷な話ではないかという展示。でもオオカミも人間のパン屋を脅したりして白い粉ふきつけていますけど･･･。

出口近くにホフマンの描いた左右のほっぺたにカエルをつけた騎士が現れます。民話や神話のようなふしぎな伝説を絵にしたコーナーで、解説付きのものも面白かったのですが、私はそのカエル付き騎士がどんな伝説なのか、知りたくてならない。スイスは意外と変だ。

ジャパンナレッジスクールでクライドルフを調べたところ「絵本」の項の外国の部分に

スイスには20世紀初めのクライドルフErnst Kreidolf（1863-1956）などをはじめとして清純な画風の人々が多く，ポスターで活躍するかたわらアルプスの山村を舞台にした生活感あふれた絵本を描くカリジェAlois Carigiet，軽妙洒脱な線描のフィッシャーHans E. Fischer，重厚な写実でグリム童話を絵本化するホフマンFelix Hoffmannなど，いずれも美しく気品のある最高に芸術的な絵本をおくりだしている。

引用元：“絵本”，改訂新版 世界大百科事典（平凡社），ジャパンナレッジSchool，https://school.japanknowledge.com，（参照日：2021/2/16）

と書かれていました。フィッシャーもホフマンも知っていましたが、クライドルフの繊細な花や昆虫、毒草を擬人化した石版画が気になって、高い図版を買いにもう一度、六甲アイランドにいきました。
あなたも幼い時に読んだ物語が、時間がたってから少し別の見方ができるかもしれません。絵本や童話が生まれるきっかけや、背景が今なら深読みできるかも。表現方法に感心するかもしれないし、自分ならもっと効果的に表現できる自信が持てるかも。
　春休み、いってみてはいかが？
　高校生以下は無料です。

【こわくて、たのしいスイスの絵本展】
10:00～18:00
神戸ファッション美術館
3月28日（日）まで
月曜日休館

クライドルフ『花のメルヘン』ほるぷ出版　1987　より